

鹿児島の地形・地質11

地層の剥ぎ取り

地質担当 鈴木 敏之

「地層を剥ぎ取る…」そんなことできるの？なんて思っておられる方も多いのではないかと思います。先日、屋久島で地層の剥ぎ取りに挑戦してきました。

剥ぎ取った地層は、屋久島の大地を覆う幸屋火砕流堆積物の地層。鬼界カルデラが今から約7300年前に大噴火をしたときの堆積物です。その場所は、宮之浦川の支流である古城川に面した高さ10mほどの崖で、川の防災工事のためにちょうどその崖を削っていたときに赤橙色を帯びたこの堆積物が発見されました。

この堆積物は、幸屋火砕流起源のものだけから構成され、軽石と砂が交互に切り合いながら堆積しており、激しい水流の結果形成された津波堆積物ではないかとも考えられています。このことについては、これからさらに研究され、議論されていくこととなりますが、4月下旬には防災工事でこの崖の一部が観察できなくなるため、県立博物館ではこの地層を剥ぎ取って保存し、展示活動や今後の研究に役立てていくことにしました。

実際の作業は、まず、地層面が平面になるように表面を整形し、その後、強力な接着剤

を地層面に刷毛で塗ります。(写真①)

次に、その上から大きなガーゼをかぶせ、地層とガーゼが密着するように竹串を刺します。さらに、その上から接着剤を塗り重ねて、半日ほど放置し固まるのを待ちます。

完全に固まったことを確認し、慎重に剥がしていきます。(写真②)

剥がす面積が広くなればなるほどガーゼが重たくなり作業が困難になります。

最後に表面の余計な汚れを取り除き、▲写真② 剥ぎ取り作業仕上げの薬剤を塗布すれば完成です。

今回、剥ぎ取った地層は、近いうちに展示用に加工して、本館2階の企画コーナーに展示する予定です。



▲写真① 接着剤の塗布



▲写真② 剥ぎ取り作業

鹿児島の植物20

中之島のスゲ

植物担当 大屋 哲

3月15日～18日にトカラ列島の中之島で調査を行いました。その時に見つけた、カヤツリグサ科スゲ属の植物を紹介します。

○トカラカンスゲ [花期4月]

トカラ列島に固有のスゲです。林内や道路沿いなどに生えていました。葉幅は4mmから1cmで濃い緑色をしており、ざらついています。高さは30cmから50cmで、上部の花(頂小穂)が雄花、下部の花(側小穂)が雌花かたまたま先端に雄花がつくことがあります。



○フサカンスゲ

[花期4月～5月]

中之島と黒島特産のスゲです。中之島では沢沿いの林内などに生えて



いました。葉幅は5cmから1cmで緑色をしており、葉のふちが少しざらついています。高さは40cmから100cmで、茎の節に3個から8個の花をつけます。花は、雄雌性(上部が雄花で下部が雌花)になっています。

○オキナワジュズスゲ [花期5月～6月]

南方系のスゲで、関東南部以西から南西諸島に分布します。中之島では林のふちに生えていました。高さは30cmから60cmで、花の部分が数本まとまってつきます。乾燥すると果胞(果実の入った袋)が黒くなります。



その他、シラスゲ、ヒメアオスゲ、ヒゲスゲ、アオスゲなどを採取、標本化しました。スゲを追いかけている私にとって充実した調査となりました。